

平成 30 年度
国際交流委員会活動報告

平成30年度韓国東国大学校薬学大学との国際交流

李 辰竜・松村実生
薬学部国際交流委員会

本学薬学部では視野の広い未来を開拓する医療薬学専門人の育成の一環として、国際交流協定校を中心に学生の派遣と受け入れを行いながら、国際交流を推進している。その一環として平成25年度より韓国協定校（東国大学校薬学大学並びに漢陽大学校薬学大学）への韓国薬学研修と協定校学生の受け入れを行っている。平成30年度は東国大学校薬学大学との学生相互交流を企画し以下のように実施した。本学学生が東国大学校薬学大学を訪問した韓国薬学研修と本学での東国大学校薬学大学学部生の受け入れについて下記に紹介する。

1. 韓国薬学研修

○概要

平成30年8月8日（水）から8月11日（土）まで、本学学術交流協定校の東国大学校薬学大学にて第5回韓国薬学研修を実施した。研修には3年次生6名の本学薬学部生が参加した。東国大学校薬学大学、附属病院、連携調剤薬局を見学し、韓国における薬学教育、医療、薬剤師について学ぶとともに、東国大学校薬学大学学部生との懇談・懇親会を通して親睦を深めた。さらに韓方市場や博物館、ソウル市内の散策を通して異文化体験を行った。



○参加者

3から5年次生を対象として募集し、選考の結果、下記の6名の薬学部学生が参加した。また下記の教員3名が同行した。

参加学生

学年	学籍番号	氏名
3	16A086	高塚 菜月
3	16A089	田川 佳於里
3	16A091	竹下 芽咲
3	16A098	千葉 有紀子
3	16A122	野村 祐里
3	16A173	渡邊 裕菜

引率・参加教員

衛生薬学講座	李 辰竜 講師
薬化学講座	松村 実生 講師
地域医療薬局学寄附講座	乾 大樹 講師

○研修日程とスケジュール

表1に研修日程とおよびスケジュールを示した。初日に東国大学校のソウルキャンパスを訪問した。2日目には東国大学校薬学大学を訪れ、薬学部生と懇談するとともに薬学部、附属病院、連携薬局の見学を行った。3日目は韓方市場と韓方博物館



表 1. 韓国東国大学校薬学大学 訪問スケジュール

日時		スケジュール	
8月8日	9:25	中部国際空港発	
(水)	11:25	仁川空港着	
	15:30	東国大ソウルキャンパス訪問	キャンパスツアー
	15:30	ホテル着・市内にて夕飯	ホテルスカイパーク明洞2
8月9日	9:00	ホテル発	貸し切りバス
(木)	10:00	東国大学薬学部訪問	東国大学薬学部・病院薬剤部・地域薬局見学
	18:00	懇親会	
8月10日	9:00	ホテル発	
(金)	10:20	韓方市場・漢方博物館見学	ソウル東大門区
	14:00	韓国文化体験	仁寺洞周辺
8月11日	9:30	ホテル発	
(土)	19:05	仁川空港発	
	13:50	中部国際空港着	現地解散

の見学および文化体験を実施した。4日目は移動日として、日本へ帰国した。

2. 東国大学校薬学大学学部生受け入れ

○概要

本学学術交流協定校の東国大学校薬学大学の訪問団を、平成30年8月21日（火）から8月24日（金）の日程で受け入れた。9名の学生と引率教員1名の計10名が来日するとともに本学研修プログラムに参加した。研修では本学キャンパス（日進・楠本）、大学病院、ドラッグストア、製薬会社

工場などの見学を実施した。また、本学学生とともに名古屋城をはじめとする名古屋市内の散策と歓迎会・親睦会を通して交流を深めた。

○研修日程とスケジュール

表2に研修日程とスケジュールを示した。宿泊先は本学日進キャンパス内にある学生会館を利用した。1日目は移動日とし、2日目には名古屋市立大学病院およびスギヤマ薬局の上田店・研修センターの見学を行った。さらに、本学薬学部棟を見学したのち、本学教職員、学生とともに歓迎会を

表 2. 東国大学校薬学大学学部生 受け入れスケジュール

日時		スケジュール	
8月21日	13:00	中部国際空港着	
(火)	15:30	日進キャンパス着	学院会館宿泊
8月22日	8:40	日進キャンパス発	大学マイクロバス
(水)	9:30	病院見学	名古屋市立大学病院
	14:00	薬局見学	スギヤマ薬品植田店および研修センター
	17:00	学部長と面談・薬学部見学	
	18:00	歓迎会	本学教職員、学生及び東国大学校学生を含む
8月23日	8:40	日進キャンパス発	大学マイクロバス
(木)	10:20	エーザイクすりの博物館着	工場・博物館・薬草園の見学
	14:00	市内散策	名城公園キャンパス・名古屋城など
	17:30	学生懇談会	
8月24日	10:00	日進キャンパス発	大学マイクロバス
(金)	13:50	中部国際空港発	



実施した。3日目は本学学生とともにエーザイの工場ならびに薬の博物館の見学を行った。最終日も移動日とし、韓国への帰国を見送った。

3. 所感

研修に参加した学生たちは韓国での様々な薬学関連施設や薬学教育の現場を、熱心にメモを取りながら見学し、東国大学校薬学大学の学生たちと交流を深めていた。これらのことは韓国研修への参加学生たちにとって薬学を学ぶ上での動機づけとなり、世界へと視野を広げるきっかけの一つになったと思われる。また、参加学生は薬学だけでなく韓国の大学制度など様々なことに興味を持ち、東国大学校薬学大学の学生の受け入れの際には親睦会での一緒に料理をすることを企画するなど、積極的に親睦を深めることができたと感じた。今後もこの研修を継続的に重ねることで、学生をはじめ両校の国際交流が益々の発展を見せることを祈念する次第である。

終わり当たり、平成 30 年度の東国大学校薬学大学との学生相互交流にご協力とご支援をいただいた東国大学校薬学大学ならびに本学関係各位に厚く御礼申し上げます。